

(1) 患者数等	
年間新入院患者数（平成 25 年 1 月 1 日～12 月 31 日） 1	6,582 人
年間新入院がん患者数（平成 25 年 1 月 1 日～12 月 31 日） 2	1,195 人
年間新入院患者数に占めるがん患者の割合	18.16%
年間外来がん患者のべ数（平成 25 年 1 月 1 日～12 月 31 日） 3	19,919 人
年間院内死亡がん患者数（平成 25 年 1 月 1 日～12 月 31 日）	114 人
新入院患者数（原則、平成 26 年 4 月 1 日～7 月 31 日までの新入院患者。） 1	2,290 人
新入院がん患者数 2	415 人
（新入院患者数に占めるがん患者の割合）	18.12%
うち肺がん患者数（ICD-10 コード C34\$, D02.2）	52 人
うち胃がん患者数（ICD-10 コード C16\$, D00.2）	67 人
うち大腸がん（直腸がんを含む）患者数（ICD-10 コード C18\$, C19, C20, D01.0, D01.1, D01.2）	99 人
うち肝臓がん患者数（ICD-10 コード C22\$, D01.5）	17 人
うち乳がん患者数（ICD-10 コード C50\$, D05\$）	18 人
<p>1 新入院患者数は、例えば、同一患者が当月中に 2 回入院した場合は 2 件とする。入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も計上する。</p> <p>2 がん患者数等は、がんを主たる病名に確定診断されたものについて計上すること。</p> <p>3 年間外来がん患者延数は、当年の新来、再来がん患者及び往診、巡回診療、健康診断、人間ドック等を行い、診療録の作成又は記載の追加を行ったがん患者の延数を記入する。同一患者が 2 つ以上の診療科を受診し、それぞれの診療科で診療録の作成又は記載の追加を行った場合、それぞれの外来患者として計上する。</p> <p>4 「\$」は当該項目の下位分類を全て含むという意味である。</p> <p>5 特定領域がん診療連携拠点病院の特定のがん種については、別紙71に記載すること。</p>	
年間セカンドオピニオン外来受診件数	0 件
(2) 麻酔及び手術等の状況（平成 26 年 4 月 1 日～7 月 31 日）	
全身麻酔の件数の総数	327 件
ア. 悪性腫瘍の手術件数の総数	118 件
イ. 肺がん（C34\$, D02.2）の手術件数	
開胸手術 K511\$, K514\$, K518\$	0 件
胸腔鏡下手術 K514-2\$	0 件
ウ. 胃がん（C16\$, D00.2）の手術件数	
開腹手術 K654-2, K6552, K655-42, K6572	10 件
腹腔鏡下手術 K654-3, K655-22, K657-22	2 件
内視鏡手術 粘膜切除術（EMR）K6531	0 件
内視鏡手術 粘膜下層剥離術（ESD）K6532	7 件
エ. 大腸がん（C18\$, C19, C20, D01.0, D01.1, D01.2）の手術件数	
開腹手術 K7193, K739\$, K740\$	22 件
腹腔鏡下手術 K719-3, K740-2\$	10 件
内視鏡手術 K721\$, K721-2\$, K721-4, K739-2, K739-3	8 件
オ. 肝臓がん（C22\$, D01.5）の手術件数	
開腹手術 K695\$	5 件
腹腔鏡下手術 K695-2	0 件
マイクロ波凝固法 K697-2	0 件
ラジオ波焼灼療法 K697-3	0 件

カ. 乳がん (C50\$, D05\$) の手術件数		
手術 K476\$		8 件
乳癌冷凍凝固摘出術 K475-2		0 件
乳腺腫瘍摘出術 (生検) K474\$		0 件
乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術 K474-3		0 件
乳房再建術 (乳房切除後) 二期的に行うもの K476-32		0 件
キ. 転移性肺がん (C780) の手術件数		
開胸手術 K511\$, K514\$, K518		0 件
胸腔鏡下手術 K514-2\$, K513		0 件
ク. 転移性肝がん (C787) の手術件数		
開腹手術 K695\$		3 件
腹腔鏡下手術 K695-2		0 件
ケ. がん患者に対し、がん患者リハビリテーション料以外のリハビリテーションが提供された件数		2,218 件
(3) 放射線治療		
以下、放射線治療件数に関する項目は、必ず放射線治療責任医師の確認を取って記入すること。		
ア-1 全てのがんを対象としたのべ患者数 (平成 25 年 1 月 1 日 ~ 12 月 31 日の間に放射線治療を開始した患者数)		
例: 平成 25 年 3 月に新患として放射線治療を受け、同年 10 月に転移で再度放射線治療を受けた場合は 2 名と数える。		
体外照射		102 人
そのうち特殊なもの		
定位照射 (脳)		0 人
定位照射 (体幹部)		2 人
強度変調放射線治療 (IMRT)		102 人
小線源治療		0 人
ア-2 我が国に多いがんを対象としたのべ患者数 (平成 26 年 4 月 1 日 ~ 7 月 31 日の間に放射線治療を開始した患者数)		
例: 平成 25 年 4 月に新患として放射線治療を受け、同年 7 月に転移で再度放射線治療を受けた場合は 2 名と数える。		
原発巣に記載してください。		
< 入院 >		
肺がん		2 人
胃がん		0 人
肝がん		1 人
大腸がん		0 人
乳がん		0 人
< 外来 >		
肺がん		0 人
胃がん		0 人
肝がん		0 人
大腸がん		1 人
乳がん		3 人
イ-1 全てのがんを対象とした照射回数 (平成 26 年 4 月 1 日 ~ 7 月 31 日ののべ照射回数)		
体外照射		785 回
そのうち特殊なもの		
定位照射 (脳)		0 回
定位照射 (体幹部)		24 回
強度変調放射線治療 (IMRT)		785 回

小線源治療	0 回
イ-2 我が国に多いがんを対象としたのべ照射回数（平成 26 年 4 月 1 日～7 月 31 日） 原発巣に記載してください。	
<入院>	
肺がん	39 回
胃がん	0 回
肝がん	17 回
大腸がん	0 回
乳がん	0 回
<外来>	
肺がん	0 回
胃がん	0 回
肝がん	0 回
大腸がん	10 回
乳がん	75 回
(4) がんに係る化学療法（平成 26 年 4 月 1 日～7 月 31 日）	
ア. のべ患者数（化学療法 1 レジメンを 1 人として数える。内服のみのレジメンは対象外とする。） 例：平成26年4月1日～7月31日の間に、エトポシド+シスプラチン併用療法4コース実施した場合は1人と数える。	
<入院>	90 人
<外来>	148 人
イ. のべ処方件数（抗がん剤が処方された件数に、それぞれの処方日数を掛けた数とする。内服のみのレジメンは対象外とする。） 例：平成26年4月1日～7月31日の間に、抗がん剤が4日分処方された場合は4件と数える。	
<入院>	522 件
<外来>	1,374 件
ウ. のべ処方人数（内服のみのレジメンで実施した化学療法 1 レジメンを 1 人として数える。）	
<入院>	3 人
<外来>	97 人
エ. のべ処方件数（内服のみのレジメンで抗がん剤が処方された件数に、それぞれの処方日数を掛けた数とする。）	
<入院>	102 件
<外来>	6,561 件
(5) 検査等の実施状況	
ア. 病理診断の件数	
病理診断（平成 25 年 1 月 1 日～12 月 31 日）	3,360 件
細胞診診断（平成 25 年 1 月 1 日～12 月 31 日）	935 件
病理組織迅速組織顕微鏡検査（平成 25 年 1 月 1 日～12 月 31 日）	50 件
剖検（平成 25 年 1 月 1 日～12 月 31 日）	2 件
剖検率（平成 25 年 1 月 1 日～12 月 31 日）	0%
イ. 画像診断等の件数（平成 25 年 1 月 1 日～12 月 31 日）	
上部消化管内視鏡検査（食道及び胃・十二指腸ファイバースコープ。手術に伴って検査を行った患者数も計上すること）	2,369 件
気管支内視鏡検査（気管支ファイバースコープ。手術に伴って検査を行った患者数も計上すること）	79 件
大腸内視鏡検査（大腸及び直腸ファイバースコープ。手術に伴って検査を行った患者数も計上すること）	1,542 件
血管連続撮影（動脈注射、動脈造影カテーテル法、静脈造影カテーテル法、心臓カテーテル法により、心臓や血管内に造影剤を注入して連続撮影を行う検査。手術に伴って検査を行った患者数も計上すること）	1,003 件

CT 検査 E2001\$	11,139 件
CT ガイド下生検 D409 から D413 までに掲げるものを C T 透視下に行った場合	0 件
MRI 検査 E202\$	5,468 件
RI 診断検査 (シンチグラム) E100\$	702 件
シングルフォトンエミッション CT (SPECT) 検査 E101	294 件
PET (陽電子断層撮影) 検査 E101-2\$, E101-3\$	0 件